

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：十勝地区
- 2 事例報告学校名：新得町立新得小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 程 野 仁
- 4 キーワード：「楽（学）力向上」を目指す活力ある学校づくり



1 はじめに

本校は毎年、公開研究会を開催するとともに、昨年度は、地域連携研修指定校、本年度は、管内の各教科サークル合同研究会会場校として、常に授業改善への意欲を高くもち続けている学校である。また、本年度は、脳の中の記憶を司る「海馬」の働きにより、「楽しい」「面白い」という感情と一緒に学習すると、深く記憶することができることを踏まえ、「楽（学）力向上」を経営キーワードの一つにし、児童の内発的な好奇心を高め、楽しみながら学ぶようにする中で、確かな学力の育成を図る授業改善に努めている。

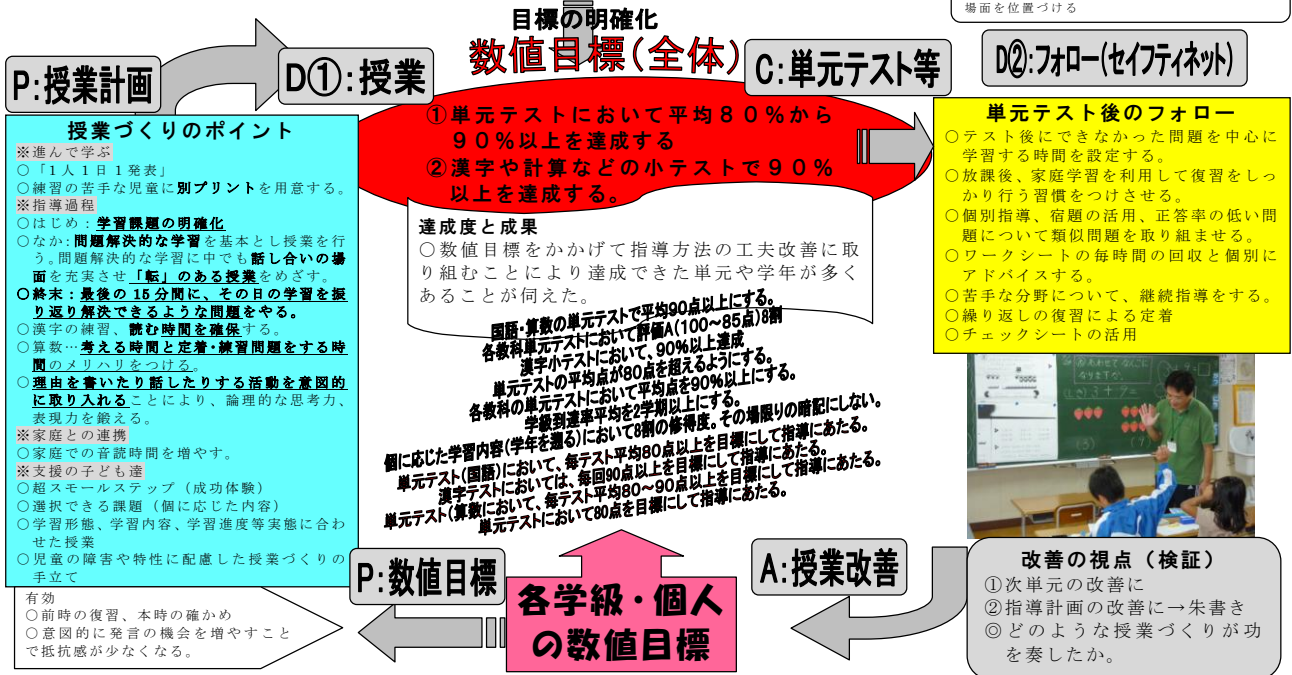
2 授業改善への組織的な取組

(1) PDCA サイクルを重視した学校改善プランに基づく授業の検証と改善

評価・検証のないところに授業改善はない。授業改善なくして、子どもの学力向上は図れない。本校では、下記のとおり、学級担任や通級指導教員ごとに数値目標を明確にした指導を行うことはもとより、特に低位児童に対するセーフティネットを含めた検証・改善システムを重視した取組を進めている。

新得小学校学校改善プラン 平成25年5月末見直し

<p><b>分野別重点③</b> 平成26年までに学力・学習状況調査の算数科における、「理由付け」「解決方法」「説明」の問題への正答率を50%以上にする。 (取組) 全学年で問題解決学習に取り組んだり、生活場面を設定したりして、理由付け、解決の方法、論理的考え進んで説明したり、判断の正しさを説明したりする活動に取り組む。</p>	<p><b>新得意小学校の学校改善プランの方針</b> ☆学習指導要領の趣旨を生かした授業の構築を図る。 ①知識・技能を身に付けるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力等を育成する。 ②各学級・個人における単元テスト・小テストにおいて数値目標を設定し、 (ア) 目標達成のための授業づくり(改善)を行う。 (イ) 一人一人に目を向けたフォローを行う。 ことで、子どもたちに学習内容を定着させる。</p>	<p><b>分野別重点①</b> 第6学年「読むこと」の領域の単元テストにおいて平成24年度中に80点以上得点できる児童を70%以上にする。 (取組) 相手や目的、場面に応じて伝えたいことや考えを明確にする指導を工夫する。</p>
<p><b>分野別重点②</b> 平成26年度全国学力学習状況調査における「書く」領域の正答率を今回の18%を60%以上にする。 全学年で「短文を書き表す活動」に取り組む。* 国語科で学習したことを各教科、領域で活用する場面を位置づける</p>		



(2) 「転」をキーワードにした校内研究の改善・充実

校内研究においては、問題解決的な学習における起承転結の「転」の場を重視している。児童は、「起」(問題との出会い)、「承」(個人思考)の中で、できたつもり、分かったつもりになっている。その状態を揺さぶ



ることで実感を伴った理解や納得を生み出す場が「転」であり、授業を振り返り解決のまとめをするのが「結」である。「転」の場を深める中で、右記の「あいうえお」の姿がたくさん見られる授業展開を目指している。

あ～「あっ、そうか」と気づく姿  
 い～「いいね」と賞賛する姿  
 う～「うーん」と考える姿  
 え～「えっ」と驚く姿  
 お～「おー」と感心する姿

### (3) 学習指導要領の趣旨を生かした授業改善を図る職員室風土の醸成

学習指導要領の趣旨を生かした授業改善を図るため、校長が作成した「授業改善のポイント」(左下)及び、研修部が作成した、授業づくりに関する授業書「授業見つめる目20」(右下)などをもとに、日常的に授業について語り合い、学び合い、改善し合う風土の醸成に努めている。

教科等	授業改善のポイント (新得小学校)
全教科等に共通	学校や教育は教師次第、教師の存在・人柄・指導力こそが子どもにとっての命綱であることを肝に銘じ、①教師による「内容の伝達や確認が中心の授業」から「子どもが根拠を明確にして表現し合う授業、子どもが自ら考え抜く授業」への転換、②学力の3要素(基礎・基本、活用する力、学ぶ意欲)のバランスの良い育成、③日々の授業の目標、発問、指示、説明、個に応じた指導、習熟度別指導等の工夫や、板書計画、指名計画等、意図的・計画的な指導の展開、④褒めて伸ばす指導、生徒指導の機能を生かした指導等により、一人一人の生きる力を高めたい。
国語	①相手や目的、場面に応じて伝えたいことや考えを明確にする指導や、自分の考えを広げ深め、よりよい表現を工夫する指導の充実、②書き手の論理や描写などに注意して文章全体や文章の展開の仕方をとらえる指導の工夫、③「記録、説明、報告、感想、討論」などの言語活動の充実
社会	①観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する活動、②様々な資料から読み取り、わかったことを追究したり、比較・関連付け、総合的にとらえて再構成する活動、③考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく活動の充実
算数	思考力・判断力・表現力等を育成するよう、①言葉による表現とともに、数・式・図・表・グラフなどの数学的な表現を用いる指導の工夫、②考えたことをわかりやすく説明したり、伝え合ったりするなどの学習活動を計画的に単元に位置付けるなどの工夫
道徳	①心のノートや先人の生き方を学ぶ資料等、魅力的な教材を有効活用する中で、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深める指導の工夫、②自分の考えをもとに書いたり話し合ったりするなど、自らの考えを深め、成長を実感できる表現活動の充実
特別活動	①ならいを明確にしたり、ガイダンス機能を生かしたりする中で、将来の夢や希望を育む指導の工夫、②体験活動を通して学んだことを考えたり発表し合ったりする活動の充実、③意見の異なる人と折り合いをつけたり、他者と議論して集団としての意見をまとめる活動の工夫
総合的な学習の時間	①一人一人の課題意識や学び方、考え方の育成を重視した指導の工夫、②探究的な学習過程を重視すること、③他者との効果的な協同学習とともに、追究の過程や結果をまとめたり表現したりする活動の充実、③総合のキーワードは「一人一人」、特別活動は「みんなで」が基本

段階	項目	授業を見つめる目20	チェック	資料
学	①学習常規	授業に臨む「規律ある態度」が身に付いているか。	○△	○
ぶ	②人間関係	学級に支持的風土は醸成されているか(生徒指導の機能を生かす)。		○
環	③言語環境	言語環境は整っているか。		○
境	④指導方法	子どもの学びを支援する教室環境が整っているか。		○
全	⑤目標と評価	本時の目標と評価は適切で、目標は達成されたか。		
体	⑥授業展開	導入・展開・終末等進め方や時間の割振りは適切か。		
導	⑦課題提示	学習課題の提示の仕方は適切か。内発的な好奇心を高めたか。		
入	⑧見通し	授業の見通しをもたせているか。		○
展	⑨学習形態	学習形態は効果的か。(個人・ペア・グループ・全体)		
開	⑩言語活動	言語活動は効果的か。(習得・活用、思考力・判断力・表現力)		○
	⑪発問・指示	発問や指示は適切か。		○
	⑫思考の整理	理由や根拠をもとに、考えを自分の言葉でまとめさせているか。		○
	⑬伝え合う	ペア、グループ、全体等で、考えを伝え合うようにさせているか。		○
	⑭グルーピング	子どもの考えを分類・整理(グルーピング)しているか。		○
	⑮転結	「転」の設定は適切か。		○

### 3 授業と家庭学習との関連や人材活用の工夫

本校では、授業で学習した内容にかかわる宿題を与え、家庭学習で取り組むようにしたり、家庭学習の内容を生かした導入を工夫したりしている。また、退職人材活用事業では、児童のつまずきの支援や放課後の補充的な学習を行い、児童や保護者からも好評である。



### 4 新得町「学力向上特別委員会」との連携

本町では、北海道教育委員会が掲げる「平成26年度の全国調査までに全国平均以上」の目標やオール北海道を目指す取組等を受け、昨年度から町内小・中学校教員で「学力向上特別委員会」を組織し、毎年度の全国学力・学習状況調査における町内小・中学校の結果を分析・考察するとともに、本調査で課題となる問題や指導のポイントに関する資料を作成している(右に一部抜粋)。その結果、課題の克服に向けた授業改善が進む中で、小・中学校の連携が、教育課程を通したものになるなど、効果も表れてきている。

#### 課題となる問題

- (1) この問題は、場面と図とを関連づけて、二つの数量の関係を理解しているかどうかをみるものである。ここでは、基準量(基準とする大きさ)、比較量(割合にあたる大きさ)、割合を図と対応させることが求められる。
- (2) この問題は、1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解しているかどうかをみるものである。ここでは、基準量の求め方(比較量)÷(割合)になることを理解していることが求められる。

#### 指導のポイント

##### ■ 学習指導要領における領域・内容

- 【数と計算】第5学年
- (3) 小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする
- ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

##### ■ 教科書での扱い(東京書籍)

第5学年 上巻 P54～  
 単元 小数のわり算  
 目標 比較量、基準量が小数の場合も、倍を求めるときは除法をもちいれればよいことを理解する

#### ここがポイント!

- わり算の意味の拡張 ～整数から始めよう～
- 難解な「倍」 ～図による統合的理解を～

### 5 GPACによる進行管理への転換

学力向上に対する結果責任を継続して果たしていくためには、目標や期限等の曖昧さを払拭する中で、検証・改善のサイクルを確立する必要がある。そのため、本校では、従来のPDCAサイクルから、十勝管内校長会研修部が推進している、GPAC(数値目標設定・計画・実践・評価)による進行管理への転換を図っている。

